

## 執筆者一覧および活動報告（2003. 3～2005. 7）

橋本紀子（女子栄養大学教授）

### 〔著書・論文〕

- ・『ジェンダーと教育の歴史』（共編著）川島書店、2003年5月
- ・『いま、なぜ教育基本法の改正か』（共著）「第Ⅲ章キーワードで読む教育基本法 第5条（男女共学）」教育科学研究会編、国土社、2003年8月、p. 131～139.
- ・『Women & Men in Japan 日本のジェンダー統計No. 2（日本語版・英語版）』（共編著）民主教育研究所、2003年8月
- ・『ジェンダーフリー・性教育バッシング ここが知りたい50のQ & A』（共編著）大月書店、2003年12月
- ・「北欧の子どもの性と自己決定」、「人間と性」教育研究協議会編『季刊 Sexuality』No.9、エイデル研究所、2003年1月、p. 42-47.
- ・「『ジェンダー統計』と教育—ジェンダー視点からみた教育統計の現状」（共著）『栄養科学 研究所年報』第11号、女子栄養大学、2003年6月
- ・「男女共学制度の現状と課題」（共著）民主教育研究所年報2004『ジェンダーと教育の現在』5号 第1部・第1章、2004年1月、p. 4-39.
- ・「高齢者の地域支援サービスの利用実態に関する研究—鶴ヶ島市を中心に—」（共著）『女子栄養大学紀要』35号、女子栄養大学、2004年3月
- ・「教育基本法改正提案の逐条的検討 g 男女共学（第5条）」日本教育法学会編、法律時報増刊『教育基本法改正批判』日本評論社、2004年4月、p. 96-99.
- ・「フィンランドの性教育—社会全体で性的自立を支援する」“人間と性”教育研究協議会編『季刊 Sexuality』No. 16、エイデル研究所、2004年4月、p. 73-79.
- ・「世界の人権問題 北欧・フィンランドの性教育」『人権と部落問題』第56巻・第6号、部落問題研究所、2004年5月、p. 74-78.
- ・「日本のジェンダー平等と性教育をめぐる動向と課題」『教育学研究』72巻1号、日本教育学会、2005年3月、p. 2-13.
- ・「フィンランドの女子生徒の『読解力』の高さとその背景」『教育』713号、国土社、2005年6月、p. 33-40.
- ・「国際学力調査に示されたフィンランドの子どもたちの学力とその教育」『季刊 高校のひろば』56夏号、旬報社、2005年6月、p. 22-29.

### 〔学会報告〕

- ・日本教育学会 「報告集 ジェンダーと教育」2004年8月
- ・日本教育法学会第35回定期総会 「日本のジェンダー平等と性教育をめぐる今日的争点—教育基本法「改正」論議の背景にあるもの—」2005年5月、於：中央大学

田代美江子（女子栄養大学専任講師）

【著書・論文】

- ・『管理職スペシャル・レクチャーNo. 6 最新青少年事情サミングアップ』（共著）、教育開発研究所、2003年2月
- ・『ジェンダーフリー・性教育バッシング ここが知りたい50のQ&A』（共著）、大月書店、2003年12月
- ・「性教育研究・実践の成果と課題ー純潔教育から性教育へ」、民主教育研究所年報2004（第5号）『ジェンダーと教育の現在』2004年1月、p. 106-126.
- ・「〈性〉をめぐる国際的動向と『性教育的に不健康な社会』日本」、『教育』2004年3月号、2004年3月、p. 117-119.
- ・「『命と健康と安全を守る』オーストラリアの性教育」、「人間と性」教育研究協議会編『季刊 Sexuality』No. 16、2004年4月、p. 86-95.
- ・「日本教育史研究における『セクシュアリティと教育』研究の課題と展望」、日本教育史研究会機関誌『日本教育史研究』第23号、2004年9月、p. 69-88.
- ・「子どもの性をめぐる『問題』と教師の課題」、『日本教師教育学会年報』第13号、2004年9月、p. 38-44.
- ・「性教育におけるジェンダーの視点ー性教育からセクシュアリティ教育へー」、『部落解放史・ふくおか』第117号、2005年3月、p. 95-115.
- ・「日本の性教育の歩み⑦～⑩」（連載継続中）、「人間と性」教育研究協議会編『季刊 Sexuality』No. 9～22、2003年1月～2005年7月

藤野彰子（東京慈恵医科大学医学部看護学科助教授）

小宮明彦（特別研究員）

良 香織（女子栄養大学院 栄養学研究科保健学専攻博士後期課程）

田中和江（女子栄養大学院 栄養学研究科保健学専攻修士課1年）